

クアンニン省の建設廃棄物の適正管理・リサイクルの促進に向けたワークショップの実施

2022年12月22日

国際協力機構(JICA)ベトナム事務所

ベトナムでは現在、人口増加、経済発展に伴うライフスタイルの変化、消費の拡大、都市化、工業化などにより、固形廃棄物が急増し、深刻な社会問題の一つとなっています。これらの問題への対応として、各省・市では、固形廃棄物マスタープランを作成することが求められています(政府決定 No.59/2007/ND-CP)。

2022年12月22日、独立行政法人国際協力機構(JICA)と国立研究開発法人化学技術振興機構(JST)が共同で実施するグローバルな課題解決に向けた研究プロジェクト、SATREPS は、クアンニン省人民委員会と共同で「建設廃棄物管理・リサイクルのワークショップ」を開催しました。本ワークショップは、SATREPS プロジェクト「ベトナムにおける建設廃棄物の適正管理と建廃リサイクル資材を活用した環境浄化およびインフラ整備技術の開発」¹⁾の一環で実施されるとともに、2023年日越外交 50 周年記念行事として実施されました。セミナーには、ベトナム側より、建設省(MOC)、近隣省の関連組織や民間企業、ハノイ建設大学、日本側より、埼玉大学、国立環境研究所、JICA ベトナム事務所からの関係者、約70名が参加しました。

セミナー冒頭、JICA ベトナム事務所の久保良友次長は、「環境保護分野は JICA の重点分野の1つであり、固形廃棄物管理ではこれまで政策や技術支援のための専門家を派遣してきました」と述べました。

クアンニン省人民委員会・建設局(DOC)グエン・マイン・トゥアン(Nguyen Manh Tuan)局長は、「クアンニン省は、持続可能性を考慮した長期的な開発目標を掲げています。建設廃棄物(CDW)の収集、分別、リサイクルの重要性は認識されてる一方で、実際の適用状況は限定的です。SATREPS プロジェクトや日本の経験から学ぶことは、クアンニン省の持続可能な発展のために有用です。」と述べました。

埼玉大学工学部・情報工学科の重原孝臣教授は「クアンニン省は、PCI(省競争力指数)で5年連続トップにランクされるほか、JICA の環境改善に関する複数の ODA プロジェクトを効果的に実施した経験があることから、我々の良きパートナーになると確信している」と述べました。

クアンニン省天然資源環境局(DONRE)・環境保護支局ファム・クワン・ヴィン(Pham Quang Vinh)副支局長は、JICA のハロン湾におけるグリーン成長促進の支援を例に挙げながら、環境保護や廃棄物処理におけるクアンニン省の日本の機関や企業との協力について述べました。

セミナーでは、ハノイ建設大学のグエン・ホアン・ザン副学長(Nguyen Hoang Giang)や各専門家から、ハイフォン市で行った建設廃棄物管理調査の結果や持続的な建廃管理の提案、リサイクル材を使った路盤材技術開発の研究開発や政策等についての発表を行いました。

また、川本健教授(埼玉大学大学院・理工学研究科)からは、「埼玉県の建廃管理とリサイクルの事例」についての共有がありました。埼玉県は日本の首都である東京都に隣接することから、東京都から排出される建廃リサイクルの民間業者が発達してきたことに加え、県内の建築廃材の「地産地消」に取り組んできた経験があります。

ベトナムにおける建設廃棄物の適正管理とリサイクルを推進するため、本プロジェクトは、建廃

取り扱いガイドラインや、建廃リサイクル資材の用途別規格・基準の制定の支援を行ってきました。これらはすでに建設省(MOC)の承認を得ており、2023年初頭には正式に発出されることが期待されています。

JICA は引き続き、ベトナム政府と連携しながら、2050 年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロ(カーボンニュートラル)を目指すというベトナム政府の公約実現の支援に取り組んでまいります。

¹⁾ https://www.jst.go.jp/global/kadai/h2901_vietnam.html

²⁾ 専門家派遣「グリーン成長アドバイザー」(実施期間:2021 年 4 月~2023 年 4 月)ほか複数の環境プロジェクトを実施中または実施済み

<https://www.jica.go.jp/vietnam/office/others/ku57pq00000g86de-att/monthly202107.pdf>

以上

お問い合わせ : JICA ベトナム事務所 広報班 関 里緒菜

Tel: (+84-24) 3831 5005 (内線 137) E-mail: Seki-Riona@jica.go.jp